

氏名	小 谷 剛 士
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3753号
学位授与の日付	平成14年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	A Phase III Randomized Trial Comparing Vindesine and Cisplatin with or without Ifosfamide in Patients with Advanced Non-Small-Cell Lung Cancer: Long-Term Follow-up Results and Analysis of Prognostic Factors (進行肺非小細胞癌に対するVindesine, Ifosfamide, Cisplatin併用療法とVindesine, Cisplatin併用療法の第Ⅲ相無作為化比較試験:長期追跡結果と予後因子解析についての検討)
論文審査委員	教授 清水信義 教授 田中紀章 教授 五味田裕

学位論文内容の要旨

Vindesine、cisplatin併用療法（VP療法）にifosfamideを加えたVIP療法の有用性を検討する目的で、手術不能の肺非小細胞癌症例に対しVP療法をcontrol armとした無作為化比較試験を計画し、その長期追跡結果と予後因子解析について検討した。1987年から1992年の5年間にstageⅢ、Ⅳ期の132例を登録し、それぞれの治療法に割付を行った。奏功率では、VIP療法49.3%、VP療法44.6%($p=0.5390$)、また、奏功期間中央値、生存期間中央値および2年生存率は、VIP療法で26.5週、49.6週、14.9%、VP療法で、28.7週、37.1週、12.3%であり、統計学的な有意差は得られなかった。しかし、生存期間について、Coxの比例ハザードモデルによる多変量解析を行ったところ、NSEが最も強い予後因子であったが、VIP療法においても有効性($p=0.0131$)のあることが確認された。両治療法において、骨髄抑制がその主な副作用であったが、VIP療法の血液毒性が有意に強いものの許容範囲と考えられた。

結語：以上の結果から、進行肺非小細胞癌の治療において、VIP療法はVP療法に比し生存期間の改善に有用であることが示唆された。

論文審査結果の要旨

Vindesine、cisplatin併用療法（VP療法）にifosfamideを加えたVIP療法の有用性を検討する目的で、手術不能の肺非小細胞癌症例に対しVP療法をcontrol armとした無作為化比較試験を計画し、その長期追跡結果と予後因子解析について検討したもので、この治療において、VIP療法はVP療法に比し生存期間の改善に有用であるという結果が得られたことを認める。

よって、本研究者は、博士（医学）の学位を得る資格があると認める。